
とある王の始まりの力（グランド・ザ・アダム）～動き出した新たな歴史～

黒雪海真

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある王の始まりの力ブランド・ザ・アダム動き出した新たな歴史

【Nコード】

N7049U

【作者名】

黒雪海真

【あらすじ】

世界中には無数の力で溢れている、学園都市の能力はその1つに過ぎない、そんな学園都市に住む1人の少年霧雨安紀、彼の体には自分には分からない力が宿っているのだった、その力に気づいた様々な闇が動き始めた、様々な力が交わるとき、新たな伝説が始まる。

プロローグ（前書き）

どうも本当にすみません、この小説は『とある王の光の力』ケランド・ザ・アダム動き出した伝説』を再編集したものです。

プロローグ

世界中には私達が膨大な力にあふれている、私達一般人が知る力はその一部でしかない、元々力というものは、かつて2人の人間だけが持っていた力が始まりだった。

かつて太平洋には巨大な大陸があった、

その大陸には2人男女の人間が住んでいた。

2人は不思議で強大な力を持っていた、

2人は力を使い、世界中から人間を集めて1つの大きな国を創った。

2人は国の王と女王として国を治め国民に力を与え、平和のためにだけ使うようにと教えた。

しかし、国は謎の光に包まれ、跡形もなく消えてしまった、国民の安否も分からない、たまた国で伝わっていた力は世界中に広まり、力は平和のためから殺し合いの道具に変わったという。

消えてしまった大陸の名は、

ムー大陸

学園都市のとある学生寮の一室、この部屋には2人の少年が暮らしていた、1人は不幸な無能力者（レベル0）少年、もう1人は過去に両親を亡くし、兄に育てられた無能力者の少年霧雨安紀である、少年安紀は、夜中なのに部屋の電気をつけて一冊の古い本を読んでいた。

安紀「……………父さん。」

???「おい安紀、お前早く寝ろよ、んっ？その本確かお前の父さんの形見の本だっけ。」

安紀に話しかけてきた少年こそ、不幸少年上条当麻である。

安紀「うん、本のタイトルは英語で書かれているけど日本語で訳したら『ムー大陸の伝説』って言っらしいんだ。」

当麻「ムー大陸？」

安紀「ムー大陸ってのは大昔、太平洋にあったと言われる大陸で国があったらしいんだ、父さん一度でいいからムー大陸を見てみたいと言ってたらしいよ。」

当麻「らしいってお前が聞いたんじゃないのか。」

安紀「父さんと母さんが死んだのは僕が4歳のときだから記憶がはつきりしなくて両親のことはあまり覚えていないんだ。」

当麻「なんか聞いてすまないな。」

安紀「別にいいよ当麻、今日はもう寝よう。」

安紀は本を片付け、部屋の電気を消した。

安紀「おなすみ。」

当麻「ああ。」

2人は眠りについた。

次の日

安紀side

うーん、もう朝か。

安紀「おはよう、当麻。」

ベッドの上で寝ているはずの当麻に声をかけたが、返事は無い、あれ？

安紀「当麻？」

僕は起き上がりベッドを見たら、布団はたたんであり、時計を見た
し、

安紀「もうこんな時間！やばい遅刻する！」

寝坊してしまった！昨日の夜まで本を読んだせいか！

当麻「おい安紀、早くしねえと遅刻するぞ。」

昨日乾かした制服に、すでに着替えた当麻に話しかけられた、急いで着替えないと！

着替え中

ふう、急いで着替えたから遅刻は逃れそうだ。

当麻「早く行くぞ、あの2人を待たせっぱなしだろ。」

あの2人？ああ、一護と鍵か。

安紀「そうだね。」

僕と当麻は靴を履き、外に出ると一護と鍵が待っていた。

安紀「いやあ、ごめんね2人共、寝坊して。」

鍵「どうせ、夜中まで勉強をしていたか、本でも読んでいたんだろ、

まったく。」

一護「お前だって昨日の夜中までギャルゲーやってただろ。」

鍵、また昨日の夜もギャルゲーやってたんだ。

鍵「別にいいだろ！俺はちゃんと起きれるんだから！」

一護「別によくねえよ！俺寝不足になったんだぞ！」

当麻「俺も寝不足だ。」

うっ、それは僕が悪い。

当麻「こんな所で喧嘩したら、遅刻するぞ。」

鍵「分かってる。」

鍵は機嫌が悪くなった、何で一護と鍵は同じ部屋なんだろう？

side out

学園都市の電力は風力発電で成り立ってる、そのため、学園都市中には風力発電の巨大風車があちこちにある、その風車を支える柱の上に4つの人影があった、そのうちの1人がリーダー格の男に話しかけた。

「????」「旦那、やっと見つけたぜ。」

そう言いながら、登校中の安紀達を指差した。

リーダー格の男「そうですか、では誰があの子を消しますか?」

そう言いながら、残りの2人に聞いた。

「????」「あたしはパス、だってあんなの殺したっておもしろくないじゃない。」

「????」「オレモダ、オレ、強イ奴トシカ 闘ワナイ。」

リーダー格の男「まったく、では貴方が行ってくれますか?」

リーダー格の男は安紀達を見つけた男を指名した。

「????」「分かったぜ旦那、あんな奴、俺様にかかれば、人間千切りだ。」

リーダー格の男「1つ言いますが、絶対あの少年に見られてはいけませんよ。」

「????」「分かってますって。」

リーダー格の男「なるべく、路地裏などの人が少ない所で消してください、処分が大変ですから。」

「????」「OK、じゃあ行くとするか、ヒャッハアアアアアアアアアア

ア！！！！」

少年を消すように言われた男は勢いよく柱からジャンプして降りた。

????「本当にあの馬鹿に任せて大丈夫だったのかしら。」

リーダー格の男「まあ心配ですが大丈夫でしょう、彼なら確実にあの少年を消せるでしょう、霧雨安紀を……………」。

安紀は知らない自分に迫る命の危機を、

自分の体の中に眠る力を。

世界中にある力を。

今、新たな伝説が始まる。

プロローグ（後書き）

次回

1年F組の面々が登場

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7049u/>

とある王の始まりの力（グランド・ザ・アダム）～動き出した新たな歴史～

2011年10月9日10時09分発行